

甲状腺腫瘍の石灰化病変

— 石さまざま —

はじめに

甲状腺の石灰化病変には様々なものがあります。教科書やエコーの書物にはいろいろなパターンが記載されていますが、臨床ではほとんど役に立ちません。良性疾患、悪性疾患の特徴的な石灰化とその鑑別診断を取り上げます

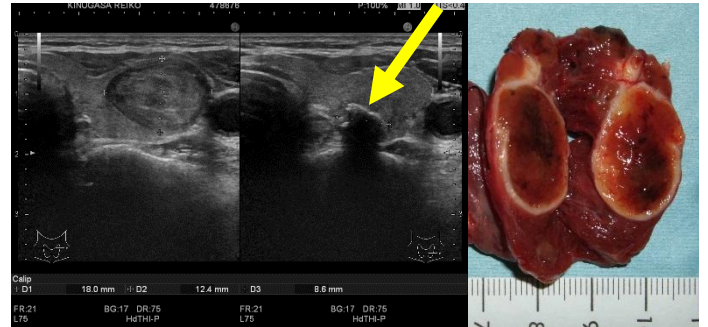


図2：甲状腺左葉に Adenomatous nodule と卵殻状粗大石灰化を認める

1. 甲状腺嚢胞の高エコー Spot

甲状腺嚢胞には内部に高輝度の点状 Spot が良く見られます。単純嚢胞であれば一見すれば石灰化とは容易に識別できますが、腺腫様甲状腺腫などの腫瘍が混在する状況では、鑑別に苦労することもあります。

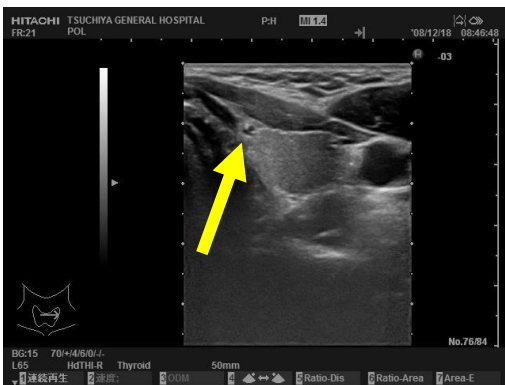


図1：学生実習における微小嚢胞、内部に微小な High echoic spot を認める。

2. 良性腫瘍に見られるリング状（卵殻状）石灰化病変

腺腫様甲状腺腫によく見られます。ほとんどは良性病変ですが、稀に乳頭癌に合併する石灰化と鑑別困難なことがあります。外来での経過観察中に一度は、穿刺吸引細胞診(ABC)を行った方が良いでしょう。

3. 悪性腫瘍に見られる粗大石灰化病変

粗大石灰化病変は良性腫瘍、悪性腫瘍のどちらでも見られます。ABCを行っても、硬い石灰化病変では診断に必要な細胞採取が困難なことをしばしば経験します。石灰化部分の ABC が困難であれば、周囲病変の ABC に切り替えざるを得ません。

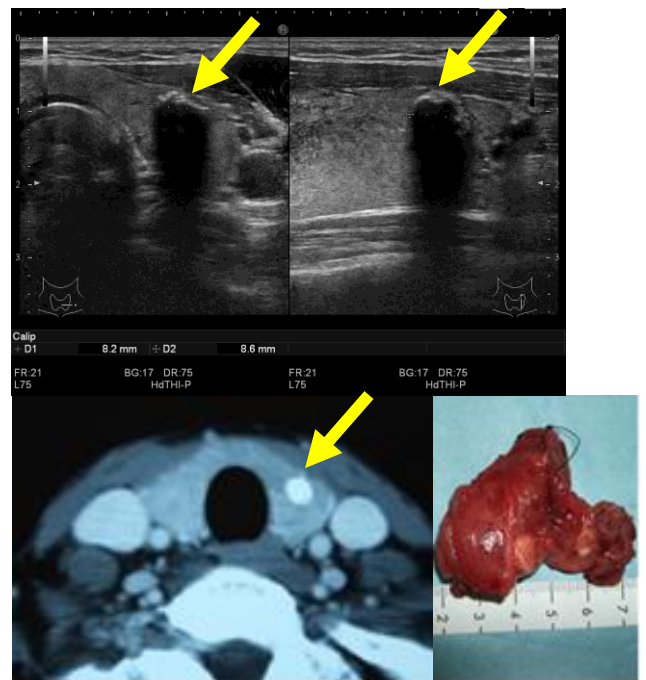


図3：甲状腺乳頭癌に認められた粗大石灰化病変。

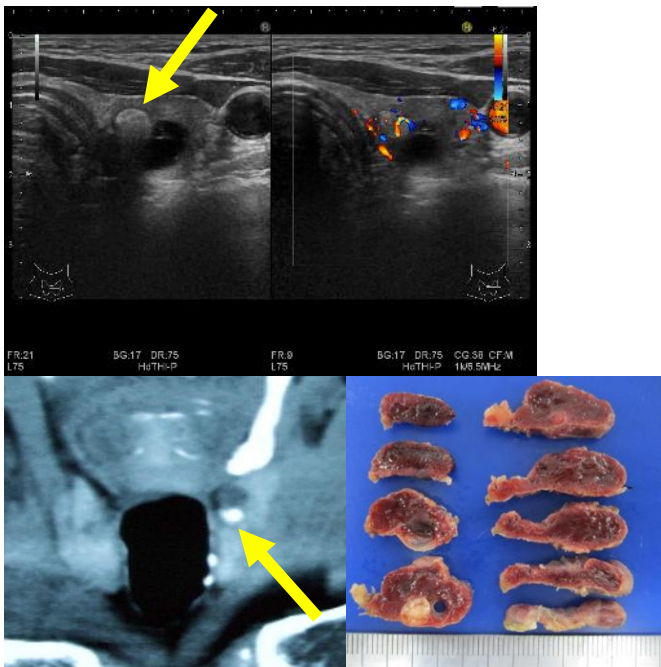


図4：甲状腺乳頭癌に認められた嚢胞変性と粗大石灰化病変。

4. 砂粒状石灰化病変 (Psammoma body)

乳頭癌に特徴的な石灰化です。砂を撒いたような小石灰化病変があれば、乳頭癌と考えて、ほぼ間違いありません。稀に、甲状腺全体に微小癌が広がるびまん性硬化型乳頭癌 (DSV: Diffuse sclerosing variant) を経験します。

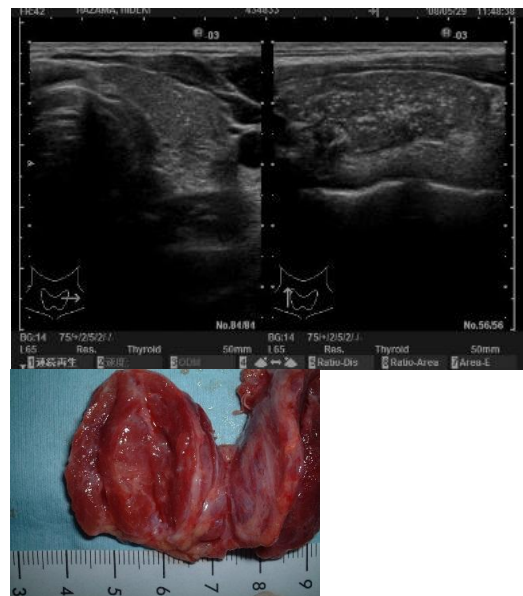


図5：びまん性硬化型乳頭癌、甲状腺内に無数の微小石灰化病変を認める

5. 石灰化リンパ節

甲状腺内の石灰化病変の ABC で細胞採取困難な時には、腫大リンパ節の ABC が有用です。結核などの炎症性変化でリンパ節の石灰化が起こることも

ありますが、甲状腺に大きな石灰化腫瘍がある症例で、同時に石灰化リンパ節を認めれば、乳頭癌のリンパ節転移と推定するのが論理的でしょう。

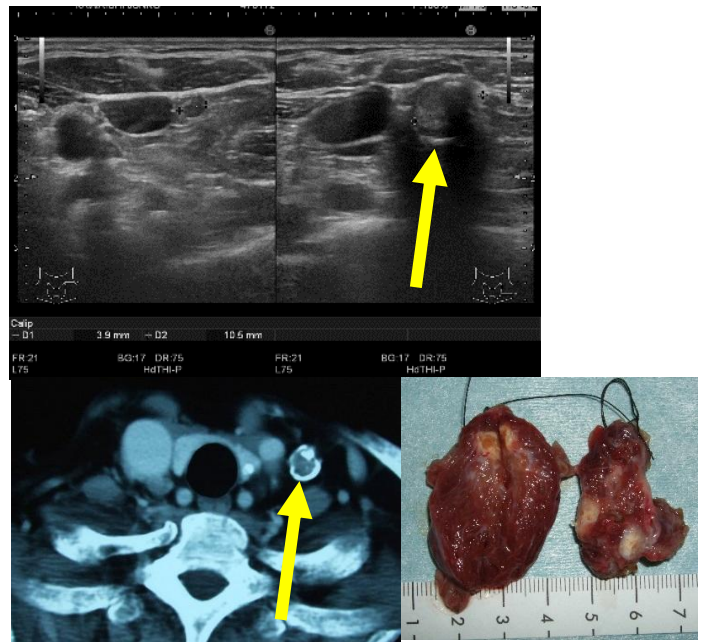


図6：石灰化をともなう多発乳頭癌と石灰化リンパ節転移

6. 石灰化を随伴する甲状腺腫瘍の注意点

石灰化病変は様々で、診断困難なことが多く頭を悩ませられます。各症例に対して画一的なマニュアル通りではなく、柔軟な対応が求められます。「石灰化した石頭は百害あって一利なし」と考えます。サブタイトルはシュティフター (Adalbert Stifter 1805-1868) の小説『石さまごま』という連作短編集の模倣です。

シュティフターには様々な作品がありますが、この小説は鉱物の好きな著者らしい佳作です。その他の有名な『晩夏』という作品には、「退屈で冗長」という批評と「ドイツ語で書かれたもっとも美しい小説」という相反する評価があります。ちくま文庫から出版されていますので、興味のある方はご一読ください。

ちなみに、小生の評価は「冗長かもしれないが、最後まで読み通す忍耐力があれば美しいと理解される小説」です。



Photo. by K.Sugino